

活動の中で感じた課題

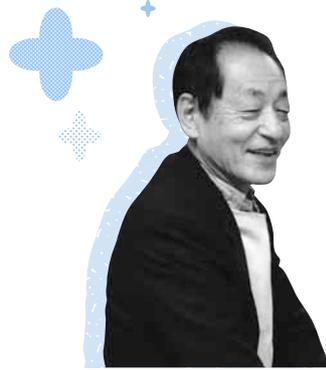
志村：皆さんのさまざまな考え方や、取り組みについてのお話を伺って、とても勉強になります。次に、皆さんの活動の中から感じられたことなどをお話しいただきたいと思います。

佐藤さん：まちの魅力に気付く機会が、皆さんまだまだ少ないのではないのでしょうか。苦小牧は、ホッキやハスカップなどが有名ですが、例えばホッキなどの苦小牧の特産品を、市民が手にする機会を増やすことで、私たちが気付いていない魅力にたくさん気付くのではないかと思います。



重光さん：よく市長もおっしゃっています。20年後の苦小牧を見据えたときに、やはり少子高齢化が一番の課題ではないかと思いま

す。私たちの第八区自治会は、世帯数は比較的多いですが、高齢化で班長の担い手が減ってきています。それに加えて若い人も市外に出て行って、お年寄りの夫婦や単身世帯が増えています。このような状況ですので、町内会活動をしていても、みんな参加しないんですよ。今、それをどうするのかというのが、町内会の課題です。



アーサーさん：お祭りなどのイベントは、ほとんどは出店があつていろいろな物が食べられるのですが、ホッキまつりのように、大きなテーマがあると、すごく盛り上がり、「また行きたい」という気持ちになると思います。また、メジャーな人を呼ぶとか、目玉があればいいなと思います。私も、いろいろなイベントに参加するようにしています。イベントには、そのまちに住む人の考えや気持ちが見られているのではないかと思います。



▲アーサーさんも参加した国際交流イベント「ぐる〜World」

鏡さん：私は、そもそもお祭りが当たり前のようには開催されている感じが感じました。子ども頃当たり前のようには楽しかったお祭りが、実は多くの大人たちの支えの下に毎年開催されているということに気付きました。これから私たちが次の世代にバトンタッチしなければいけないという思いをすごく強く感じています。そのためにも、もっと私たち市民がま

市民自治が必要になったのはどうして？

① 地方分権の進展

平成12年の地方分権改革によって、国中心の全国画一的なまちづくりから、それぞれの地域のは自分たちで決める、というまちづくりが求められるようになりました。

② 市民ニーズの多様化、人口減少と少子高齢化

市民の意識、価値観、ライフスタイルが変わり、市民ニーズが日々多様化・複雑化しています。また、人口減少、少子高齢化により市の税収が減少し、社会保障などにかかる費用が増加しています。その中で、市だけで公共サービスを担い、市民ニーズに対応することが難しくなってきました。

このような背景があり、市と市民が協力してまちづくりを行うことが、より必要になってきています。

市民自治推進会議

10年前に施行された自治基本条例ですが、その目的が正しく実現されているか、市民の立場から見守る必要があるため、苦小牧市民自治推進会議を設置しています。

過去の会議では、自治基本条例の見



▲市民自治推進会議の様子